

かけはし

すべては三浦のために

ともに生きる

翔子

ともに生きる社会 かながわ憲章

- ① 私たちは、**あたたかい心**をもって、すべての人のいのちを大切にします
- ② 私たちは、**誰もがその人らしく**暮らすことのできる地域社会を実現します
- ③ 私たちは、障がい者の社会への参加を妨げるあらゆる**壁、いかなる偏見や差別も排除**します
- ④ 私たちは、この憲章の実現に向けて、**県民総ぐるみ**で取り組みます

28年10月14日 神奈川県

この悲しみを力に、ともに生きる社会を実現します

平成28年7月26日、障害者支援施設である県立「津久井やまゆり園」において、19人が死亡し、27人が負傷するという、大変痛ましい事件が発生しました。この事件は、障がい者に対する偏見や差別的思考から引き起こされたものと伝えられ、障がい者やそのご家族のみならず、多くの方々に、言いようもない衝撃と不安を与えました。私たちは、これまでも「ともに生きる社会かながわ」の実現をめざしてきました。そうした中でこのような事件が発生したことは、大きな悲しみであり、強い怒りを感じています。このような事件が二度と繰り返されないよう、私たちはこの悲しみを力に、断固とした決意をもって、ともに生きる社会の実現をめざし、ここに「ともに生きる社会かながわ憲章」を定めます。

ともに生きる社会
かながわ憲章



神奈川県ホームページで黒岩知事がメッセージを発信しています。
<http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f535096/>
 問い合わせ先 神奈川県保健福祉局福祉部障害福祉課 電話 045-210-4703 FAX 045-201-2051



①「B-1 グランプリスペシャル in 東京 2016」三崎まぐろラーメンズの応援に。②「第22回三浦市城ヶ島駅伝競争大会」今年の参加は135チーム675名。③「なごり雪」作詞作曲の伊勢正三さんと。④「第33回三崎港町まつり」台船ステージの上で挨拶をさせて頂きました。⑤「第12回三浦市防犯のつどい」来賓挨拶。三浦市の犯罪件数は前年比51件減り、県内でも優秀な減少率ということです。⑥ロックバンド「アンダーグラフ」の皆さんと。⑦「三浦商工会議所会館完成披露並びに創立60周年記念式典」にて来賓挨拶。黒岩神奈川県知事、小泉進次郎衆議院議員はじめ県内各地商工会議所会頭ほか多くの来賓がお越しになり盛大な式典に。⑧今年10月「かながわ自民党青年総局幹事長」に就任しました。⑨「第44回いなりっ発表会」にて来賓挨拶。⑩「早稲田大学校友会神奈川県支部大会」にて黒岩県知事と。

昭和48年(1973年)生
 1996年 早稲田大学教育学部 卒業
 1996年 凸版印刷株式会社 入社
 2001年 有限会社丸石製作所 入社
 2011年 公益社団法人 三浦青年会議所 第50代理事長
 2013年 三浦市議会議員(一期)
 2015年 神奈川県議会議員 就任

所属：自民党神奈川県議会議員団副団長
 総務政策常任委員会



「ともに生きる社会かながわ憲章」を策定しました

三浦市の福祉諸課題にも取り組んでまいります



表紙の題字"ともに生きる"を書かれたダウン症の女流書家
金澤 翔子 かなざわ しょうこ

1985年東京都目黒区に生まれる。5歳から母の師事で書を始める。20歳の時、銀座書廊で初個展。その後、鎌倉建長寺、京都建仁寺で毎年個展。奈良東大寺で揮毫・奉納、個展。福島に「金澤翔子美術館」を開設。27歳、NHK大河ドラマ「平清盛」揮毫。銀座に「銀座金澤翔子美術館」を開設。平泉中尊寺で揮毫・奉納、個展。熊野大社、厳島神社で揮毫・奉納。28歳、国体の開会式で揮毫。天皇の御製を揮毫。30歳、国連本部でスピーチ。ニューヨーク・チェコなどで個展。京都に「シナリー金澤翔子美術館」開設。愛媛県立美術館、福岡県立美術館で個展。三輪明神大神社で揮毫・奉納、個展。太宰府天満宮揮毫・奉納、個展。比叡山延暦寺で揮毫・奉納。伊勢神宮に奉納。日本福祉大学准教授。

平成28年7月26日、障害者支援施設 神奈川県立「津久井やまゆり園」において、19人が死亡し、27人が負傷するという、大変痛ましい事件が発生し、世界中に衝撃と不安を与えました。

神奈川県施設で起きた凄惨な事件であることを重く受け止め、この悲しみを力に、断固とした決意をもって、ともに生きる社会の実現をめざし、神奈川県議会において「ともに生きる社会かながわ憲章」を可決承認しました。

憲章とは、社会的な問題に対し、県の姿勢を広く発信するもので、神奈川県議会に議決を求めるものとしては昭和59年の核兵器の廃絶を目指す宣言以来、2例目となります。

三浦市の障害者福祉の取り組みでは、平成27年から29年度までの3年間の「三浦市障害者福祉計画」を策定しています。

- 1 みんなが暮らしやすいまちづくり（すまい）
- 2 みんなが自分らしく生き生き暮らせるまちづくり（いきがい）
- 3 みんなが支えあうまちづくり（ささえあい）

の基本方針のもと、ノーマライゼーション、リハビリテー

ション、エンパワーメントの理念実現を目指していきます。あったかいまち三浦市には、土地柄、そこに住む障害者を自然に受け入れやすい土壌が残っていますが、今後も障害の正しい理解を広げていくとともに、障害者同士の支えあいやボランティア活動の支援、相談支援に重点を置き、みんなが支えあうまちを目指すものです。

私も県議会議員の立場から、ともに生きる社会みうら実現をめざし、福祉の諸課題に取り組んでまいります。



神奈川県議会第三回定例会 総務政策常任委員会

三浦半島魅力最大化プロジェクト

「三浦半島まるごと食堂」や「三浦半島DMO」の取り組みについて質疑しました。



現在開催中の平成28年度県議会第3回定例会総務政策常任委員会において、「三浦半島魅力最大化プロジェクト」の取り組みについて質疑しました。

先月、リニューアルオープンした三崎のうらりマルシェを会場に、大盛況のうちに終了したイベント「三浦半島まるごと食堂」。同プロジェクトのコアイベントとして、食の魅力向上を掲げて開かれました。三浦半島を訪れた観光客の3割以上が「名物料理・グルメ」を目的に訪れている統計もあることから、食を通じた来訪喚起はとても有効であり、積極的にPRしていくべき地域の強みであります。

今回、イタリアンシェフの川越達也さんが、三浦半島でとれた食材を使用した3種のオリジナルメニュー「LAUMI」をプロデュースし、市内ではマホロバ・マインズ三浦でアレンジメニューの提供がすでに始まっています。有名シェフと美味しい地場食材のコラボレーションは、三浦

半島の知名度向上の呼び水になり、三浦市が誇る食材の豊かさをアピールする機会になります。1人でも多くの方に知ってもらえるよう、今後の継続した利活用や発信方法についても考えてほしいと要望しました。

また、観光分野ではもう1つ「(仮称)三浦半島DMO」の設立準備について質問をしました。「DMO」とは観光誘致戦略を練る組織のことです。政府も観光を通じた地方創生の施策の1つにDMOの育成整備をあげています。

神奈川県でも今年9月、三浦半島のDMO委託事業者を決定し、これから広域観光プロモーションやデジタルサイネージコンテンツの企画・制作などの業務を行います。設立や事業実施にあたっては、市町や民間の関係者とよく協議・検討したうえでしっかりと準備を進め、緊密な連携の下に取り組み、地域活性化を着実に実現してもらいたいと思います。

神奈川県土地利用基本計画の改定について

有効な土地利用で地域振興を

質問の中では、そのほかに「神奈川県土地利用基本計画」の改定についても質疑をしました。

今回の改定では、人口減少社会への転換と地方分権が進展している中で、「これからの県土づくりをどのように考えるのか？」という重要な計画となります。三浦市の土地利用は、開発を抑制された「市街化調整区域」が多くを占めており、人口減少に歯止めをかけようにも、この規制が大きな足枷となっています。

たとえば三崎口駅周辺も市街化調整区域であり、原則として開発が難しい状況です。自然環境の保全や防災減災対策に留意し、地方創生の観点から市町村の望む地域振興のために、土地利用の転換について柔軟な対応を要望しました。その結果、「地域特性に応じて、地域振興の観点から必要な土地利用を地区計画の活用などにより計画的に進める」との文章が計画改定素案に反映されました。